**2016年5月5日詩編を読もう：神は上られる　(詩編47)**

5月5日は日本では子供の日。今年の5月5日は、カトリック教会や多くのプロテスタント教会の暦では、主の昇天祝日にあたる。　今年の主の復活日、3月27日、から復活節に入り、復活節は７週間続いている。主の復活日を第一日目とし、7週間後の50日目の日曜、5月15日には、聖霊降臨祭(ペンテコステ)を祝う。その10日前、つまり復活日から数えて40日目、今年は5月5日になるが、主の昇天日と言われている。復活のイエスが天に昇られた日とされている。また、今日から、教区の牧師全員とさらに各教会の信徒リーダが数名が集まって、教区総会（パシフィカシノッドアッセンブリ）が開かれており、とくに今年は、現在の教区主教（ビショップ）、フィンク教区長が18年の任期満了に伴い、新教区長が選任される。

　さて、そのようなことも覚えつつ、主の昇天祝日に与えられた詩篇、47編を、声に出して読んでみよう。気になる言葉は何か。紀元前数百年前にこの詩編を詠んだ、詩編作者の気持ちになってどんなことをイメージしたのか想像してみよう。そして、最後にこの詩編を通して現代の私たちに、神は何を語っているのか観想していただきたい。

詩編 / 47編

1：【指揮者によって。コラの子の詩。賛歌。】

2：すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ。

3：主はいと高き神、畏るべき方／全地に君臨される偉大な王。

4：諸国の民を我らに従わせると宣言し／国々を我らの足もとに置かれた。

5：我らのために嗣業を選び／愛するヤコブの誇りとされた。〔セラ

6：神は歓呼の中を上られる。主は角笛の響きと共に上られる。

7：歌え、神に向かって歌え。歌え、我らの王に向かって歌え。

8：神は、全地の王／ほめ歌をうたって、告げ知らせよ。

9：神は諸国の上に王として君臨される。神は聖なる王座に着いておられる。

10：諸国の民から自由な人々が集められ／アブラハムの神の民となる。地の盾となる人々は神のもの。神は大いにあがめられる。